

カトリック六甲教会 教会報

2011

8

No.476

「いただきます」と心から

主任司祭 松村 信也

今夏も例年になく耐え難い酷暑。さらに東日本大震災と福島原子力発電所事故の影響から、ここ関西地方にあっても節電を強いられます。痛み、苦しみを東日本の方々と分かち合うことは、同じ人間として理に適ったことであると思います。

しかし一方で、高齢化している我が小教区を鑑みると、「厳しいな!」と思わざるを得ません。お年寄りにとって、この猛暑はあまりにも熱すぎるからです。“熱中症”かな?と思ったら、すぐに体を冷やして下さい。熱い夏ですが、暑い夏だからこそ楽しいこともあると思います。前向きに楽しく夏を過ごせるように、互いに気づかい合い、助け合いながら今夏も乗り切りましょう。

さて東日本の大震災で学ばせて戴いた中の一つに、被災者の子どもたちから“いのち”の大切さを教えられたことです。彼らはこの大震災によって、大切な人、大切なものを沢山亡くしました。まだ小学校の児童でありながらも、大震災という悲惨な出来事から“いのち”がどれほど大切なものかを、小さな体で感じ取られたのでしょ。

テレビに放映された仮設校舎での食事の時間、小さな手が彼らの胸に合わされ「いただきます」と、心から感謝を込めたその言葉と姿勢に、強く引かれました。その引かれた理由の一つは、私たちも毎日使っている「いただきます」の言葉です。

この言葉は、私たちが食するものすべて、生きているものの“いのち”を戴くことに感謝する言葉です。なぜなら私たちの戴く食物は、すべて生きています。もし死んでいる食物であれば、誰がそれらを食べることが出来るでしょう。私たち人間は、生きている沢山の“いのち”を戴くことによって、私たちの人生があるのです。

「いただきます」とは、それらすべての“いのち”への感謝と“いのち”を戴くことによって生かされている者からの心からの敬意の言葉です。

“小さなもみじ”の合掌と「いただきます」の感謝から、“いのち”の素晴らしさ、“いのち”の尊さ、“いのち”の大切さをしっかりと心に戴きました。

“ごちそうさまでした”。





【イエス・その3】

イエスは、単に個々の言葉や行いのみでなく、ご自身の人間としての運命全体によって「天の父のことば」となった。このことは彼の十字架上の死において最も顕著であり、復活体験を通して生まれた原始教会は、様々な表現を用いて、この死に救いの意義を見いだしている。

(1) 史的イエスとイエスの個人史との関係：

ナザレのイエスの人格と使信は、何処まで正確な歴史的事実として確かめられるのか。この問題を巡って多くの研究と論争が繰り返されてきた。福音書を初めとする新約聖書の記述は、史実を忠実に記録しようとの意図ではなく、信仰の眼を通して見たイエスの姿を伝えようとするものである。

私たちは、客観的な史実性にばかり気を取られるのではなく、イエスの内面に生じた事柄に焦点を当てて、そこからイエスへの関心を乗り越えるために、イエス自身の辿った内的歴史を考える。

(2) イエスの宣教の転換（変わった点と変わらなかった点）：

① ガリラヤの春

イエスは宣教のある時点まで、回心を呼びかけ力ある業を行い、悪霊を追い出すなどの積極的な行動によって神の国の到来が実現すると考えていたようである。この時期、人々は熱狂的にイエスを迎え、喜んでその教えに耳を傾け、イエスに期待をかけていた。この時期を「ガリラヤの春」と呼ぶ。

② ガリラヤの転機

しかし、ある時点を契機に様子が一変する。「ガリラヤの冬」の時代である。マルコ 8 章・ヨハネ 6 章は、パンの奇跡の後「この時から、多くの人々はイエスを離れ去った」と記述する。これを「ガリラヤの危機」と呼ぶ。

③ ガリラヤの冬

ティルス、シドン、デカポリス地方を巡ったと言う記述がある（マルコ 7 章他）。いずれも辺境または異邦人の地である。これはイエス一行が、逃避旅行をしていたような印象を与える。

④ 変わった点と変わらなかった点

イエスご自身が神の国の実現の欠くべからざる担い手であり、自分が神の国の推進者であるというイエスの自覚に変わりはない。他方、神の国の実現のための姿勢が変わった。初めは積極的に悪の力を駆逐し、対処しようとした。しかし、ガリラヤの危機を境に、先ず、悪の力に屈するという過程を通過しなければならないこと、つまり、無力の中でひたすら悪の力を担っていくことが必要であるという自覚に変わっていったようである。いわば能動的イエスから受動的イエスへの変化である。

(3) イエスの知識について（イエスの誘惑の意味）：

イエスの誘惑は、神にすべてを委ねるか、自分のやり方を押し通すかの選択を迫る根本的なものであった。愛に委ねるか力で突き進むかである。イエスは、これらの誘惑を宣教のはじめだけに経験したのではなく、生涯を通して感じたと考えることが出来る。最後の段階でイエスは、その最終的な選択を迫られた。自分の考えたヴィジョンは神の考えと異なる。出来れば自分の考えを守りたいと願う。「この杯を遠ざけて下さい」。イエスは私たちと同じ真の人間であった。だからイエスの知識・認識は、私たちのそれと同様、時と共に発展し、成長していったのである。

「キリストは御子であったのに、受けた多くの苦しみによって従順を学び、完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与えるものとなった」（ヘブ 5:8）。つまり、イエスも私たちと同様に、無知、考え違い、誘惑などを持っていた。これは欠点や罪ではなく、まさに人間の条件である。父から使命を受けているとはいっても、最初からすべてを備えていたと結論づける必然性はない。かえってイエスが真の人間になったということは、人間の持つ制約や条件を当然担っていたと考えるこ

とが出来る。

(4) 史実としてのイエスの死の意義：

まず、イエスの死の歴史的な出来事を考察してみると、イエスはその行動や思想によって、当時の人々に危険人物であると思われていたことが挙げられる。イエスは特に、宗教的な権威に対して、自己の絶対的な権威を主張したが、それが最も危険なことであった。そこで五つのグループがイエスに敵対した。

その五つとは；

① 祭司たちやサドカイ派；

彼らはエルサレム中心にローマ帝国と妥協して、当時の政治的、宗教的な権威の中心を占めていた。それに対してイエスは神殿の清めをしたりし、あまりにも神と直結しているような行動を取っていたので、当然のこととして敵対したのである。

② ファリサイ派；

彼らは律法を厳格に守ろうとした熱心な宗教家の集まりであった。中央ではそれほど権力はなかったが、地方の会堂は主に彼らが握っていたようである。民衆に尊敬されており、また律法の専門家として、祭司たちも認めざるを得なかったようである。イエスはその律法を相対化して、むしろその源の神を基準にしたために、律法を絶対視する彼らと当然のごとく対立した。

③ “金持ち” たち；

財産は神の祝福であったが、彼らはその力を利用して、貧しい者を不当に扱うこともあったようである。イエスは直接彼らを責めなかったが、福音の価値とは相容れないことを幾度も説いた。

④ 熱心党

彼らはイスラエルの政治的独立を目指す革命家。イエスは当初、そのような政治的な救い主と誤解されていたようである。イエスの主張した神の国がそれとは質的に異なっていると気づいたとき、彼らはイエスから去っていった。

⑤ 一般大衆

一般大衆も政治的救いの期待感を抱いていた。結局、一般の人々がイエスに失望してから、イエスは死を覚悟し、エルサレムに上京する決意をしたようである。

エルサレムに上り、過越祭の前日か当日に逮捕されて、大祭司のところに連れて行かれ、そこでハッキリと自己の絶対的な権威を主張したため、神聖冒瀆罪を犯すこととなる。次いでピラトのところに連行され、ピラトは周囲の圧力に負けてイエスを死罪に決定する。

十字架の描写は、各福音記者によって異なっている。それは各福音記者それぞれの神学理解相違による。“マルコ”は神の子が十字架で苦しむ人の子であるという神学から、十字架のイエスの苦しみは非常にドライに何の装飾もなく描いている。“ルカ”にとって、十字架は悪霊の最終的なイエスへの誘惑である。イエスは最後まで、神の赦しや愛の心を全うして、悪の力に打ち勝つのである。“ヨハネ”では神のアガペーの頂点として描かれていて、すでに栄光化されたキリストと二重写しで描かれている。十字架の死に至ることによって、父なる神の愛を示し尽くす。

(5) 復活を体験した後の十字架の救済論的意義：

聖書の根本主張は、私たちはイエスの死と復活によって救われたと言うことである。つまり、過越の神秘によって、私たちが罪と死の状態から解放され、神の愛と命、平和と喜びの状態へ導かれたということである。そのような全人類の根本的な救いのために、イエスは死ななければならなかったのである。その出発点は、父なる神のアガペーにある。それをイエスは御自身の受肉を通して、また生前の言葉と行いによって示してきた。それをもっと決定的にラディカルに実現するために、自分の命をかけて、さらにその死を復活という形で乗り越えることにより、神の愛を全く明らかに実現したのである。それがどのように、私たちの救いであるかを旧約の様々な概念によって説明しているのである。

主任司祭

松村信也



教会報9月号のキリスト教基礎シリーズは、お休みです。

「2011 年度第 2 回小教区評議会」議事録

- ◆ 日時 : 2011 年 7 月 10 日(日)11:15～13:00
- ◆ 場所 : 第 4 会議室
- ◆ 出席者 : 松村主任司祭、片柳助任司祭、議長団、評議員、その他関係者

1. 報告事項

- (1) 東ブロック合同堅信式について
 - ・ 5 月 29 日(日)11:15 より神戸中央教会にて開催、受堅者 44 名。会計報告(配布資料)があり、かかった費用は 3 教会で分担する。
- (2) 神戸地区大会について
 - ・ 6 月 5 日(日)神戸海星女子学院講堂にて開催。池長大司教および 11 小教区司祭団による共同ミサが行われた。約 700 名の信徒が参加して、成功裡に終わる。
 - ・ ミサ献金は仙台教区へ義援金として送付。
 - ・ 当日の DVD が完成、別途実費にて配布可能。必要な方は事務所まで申し込む。
- (3) 「東日本大震災チャリティコンサート」について
 - ・ 6 月 26 日(日)13:30 開演、200 名以上参加、義援金は、全額カリタスジャパンを通じ寄付。今後は、メディテーションコンサートで検討。
- (4) 「神戸地区評議会報告」
 - ・ 新地区長は片柳神父。役員任期は 2 年の輪番制。常設委員会は、「広報」「養成」「社会活動部」に新たに「青年委員会」を設置予定。
 - ・ 神戸地区養成委員に六甲教会の藤原さん、志水さんが選出された。
- (5) 「地区会」の現状と課題
 - ・ 地区および地区役員の温度差を感じる。
 - ・ 連絡網の流れが悪く、見直しの必要性がある。またメールシステムの登録件数 607 件、テストメールエラー 69 件、残 538 件の中にも迷惑メールとして拒否されているメールの可能性あり。
- (6) 教会学校の夏のキャンプについて
 - ・ 8 月 7 日～9 日、兎和野高原野外教育センターで実施。今年は子供の参加者 62 名、リーダー 40 名。特に大人の引率者が少なく、高校生のボランティア 14 名の応援を得る。
- (7) 中高生の「東日本震災地ボランティア」について
 - ・ 8 月 15 日(月)～19 日(金)、参加は引率者 2 名、高校生 4 名の計 6 名予定。
- (8) その他
 - ① 「東日本大震災義援金・支援金の扱い」について
 - ・ 援助物資を援助済。寄附金は、カリタス埼玉を通し義援金として送金済み。大阪教区 ENGO(援護)プロジェクトにも支援金として送金済み。
 - ② 「被爆ピアノコンサート」について
 - ・ 8 月 21 日(日)14:00、カトリック六甲教会にて開演、入場無料。

2. 審議事項

- (1) 「教会内の節電対策」について
 - ・ 本日議決事項を、週報、教会報及び掲示板に決定事項を提示し、協力を得る。
- (2) 「納涼の夕べ」について
 - ・ 8 月 20 日(日)17:00 ミサ後開催。タイトル「手をつなぎ 心つないで 夏祭り」。5 地区・3 ブロックが担当、詳細は 7 月 17 日(日)地区役員会にて決定する。
- (3) 社会活動部の行事について
 - ・ アイライト協会指導による体験学習(アイマスク装着等)を 10 月 23 日(日)10 時ミサ後開催予定。

- ・「ブックフェア（聖パウロ書店）」は、10月16日（日）ミニバザー時に開催されるが、対象は信徒とし、今後の実施については検討課題とする。

(4) エキュメニカル（諸教会一致）対応について

- ・エキュメニカル活動の一環としての「神戸市民クリスマス」の委員会参加担当者については、久野さん以外のクリスマスキャロル担当者は、小教区評議会議長が関係各部及び関係者と協議の上決定する。

～・・～

～地区会便り～

2011年度第4回地区役員会議事録

2011年7月17日

地区会コーディネーター 橋岡

1 コーディネーターから

① 6月5日地区大会には各地区から大勢参加いただきありがとうございました。

② メールシステムの現状報告

7月9日現在の登録者数は607件。そのうち538件が届いているはずで69件がエラーとなっているが、届いているはずのメールでも迷惑メールなどに入ってしまう見られていない可能性がある。新たに拒否の解除を促すお知らせを配布している。登録者の少ない地区については地区会開催時に呼びかけてほしい。

③ 事務所の信徒台帳整理作業は終了し、現在の信徒数は1890人で確定した。この名簿をベースに地区会の名簿を訂正する。次の段階（病人、高齢者の把握など）へ順次進んでいくことになる。

④ 転入者があった場合事務所で地区会用のアンケートを渡し、記入してもらいメールシステムへの登録も促してもらう。

2 8月20日「納涼の夕べ」の取り組みについて

① 目的

教会行事を担いつつ、地区会活動活性化へのきっかけとする。

地区集会や秋のバザーにつなげていく契機とする。

次の地区会を担っていただける方も発掘したい。

② 分担

灘北1、北・三田……ゲーム（毎年教会学校で行っていた部分）

灘北2、阪神……枝豆、おにぎり等

灘南、神戸西……焼きそば

東灘北1……飲み物、かき氷、綿菓子（カキ氷は機械の調達が必要。無ければ他も考える。）

東灘南……焼き鳥

コーディネーター……地区会ブース「あなたの地区は？」

③ 各地区で会計責任者を選任する。多くの利益を上げる必要は無いが赤字が出ないように各地区で調整してほしい。

④ 設営は当日1時より行われるので参加を促す。

⑤ 今後の引継ぎのことを念頭に記録を取ってもらう。

⑥ 行事部準備会が8月7日に開催されるので各地区の責任者が出席する。

3 連絡網の運用について

① 次の人に回らないなどの問題が生じているが今年度内は各地区で適時対処してほしい。あたらしく連絡網を作り変えるのは混乱が起こる可能性がある。

② 連絡網からはずれていく方のうち、地区会として把握すべき対象と方法について、コーディネーターで検討、次回までにタイムテーブルを作成。

③ 各地区で連絡網がどこまで機能しているかを確認する必要がある。

● 連絡網メールシステムについて

地区会メール連絡システムのメールが届かない方へ

先月より数回テストと訃報連絡のためにメールシステムを使用しました。登録されているのに届かない方が何人かおられるようですが次の方法で解決できます。

携帯電話の方はドメインまたはアドレス指定受信の登録をおこなってください。

「mail-renraku@rokko-catholic.jp」からのメールを拒否しないようお願いいたします。

ご自分で設定できない方は携帯電話のお店でご相談なさってください。

GmailなどPCが届かないかたは迷惑メールに分類されている可能性がありますので探してみてください。一度迷惑メールを解除するとGmailが覚えて次回からは受信トレイに入ります。または携帯同様にアドレス、ドメインをフィルタ指定してください。

まだまだ始めたばかりでスムーズには行きませんが皆様のご協力で成り立つシステムです。どうぞよろしくお願いいたします。
地区会コーディネーターより

納涼の夕べ

— 手をつなぎ 心つないで 夏祭り —

六甲教会恒例の”納涼の夕べ”を下記の通り開催します。

日時：8月20日(土)18:00~20:00 [17:00よりミサがあります]

場所：カトリック六甲教会 駐車場・イグナチオホール

輪投げ、ヨーヨー、おにぎり、枝豆、ビール、ジュース、かき氷、綿菓子、焼きそば、焼き鳥・・・美味しさいっぱい！

イグナチオホールでは「お化け屋敷・肝試し」があります。ご期待ください。

ご近所の方も誘って大勢の方の参加をお待ちしています。

<行事報告>

∞∞∞ 受洗式の日を迎えて(6月26日) ∞∞∞

梅雨のうっとうしい日々が続く中、6月26日は嬉しいことに晴天に恵まれて教会へ参りました。普段より少し緊張しておりましたが、代母・林さまと聖堂に入り、心を落ち着かせて受洗式の時を待ちました。

厳かにミサが始まり、松村信也神父様のお声が響き、受洗式を迎える。私の心も穏やかになって、お話される一言一言をしっかりと聞くことができました。

神様に愛され、御心に適う者となれますよう、これから日々つとめて参りたいと思います。

今日、幼児洗礼をお受けになられました可愛いお嬢様とご縁を頂き、とても幸せでございました。洗礼を受けるにあたり、林様ご夫妻にお世話になり心から感謝申し上げます。これからは信仰共同体の一人として、カトリック要理や聖書のお勉強を少しずつ続けてまいります。

小さき花のテレジア 淑子



《 各部だより 》

各専門部会の活動をお知らせいたします

中高生会

8月15日(月)～19日(金)

高校生4人、引率者2人が仙台司教区へ東日本大震災復興支援活動に行きます。

参加者の安全と恵み多い時間が過ごせますようにお祈り下さい。

教会学校

8月7日(日)～10日(水) キャンプ

社会活動部

9月2日(金) 初金ミサ後、連絡会

施設管理部

8月28日(日) 定例部会

広報部

8月27日(土) 教会報発行

典礼部

○朗読者・先唱者勉強会

8月28日(日)11:30～13:00 (主聖堂にて)

内容は、・片柳神父様のお話

- ・朗読・先唱にあたっての確認
- ・聖堂マイクを使って練習

7地区で、週日ミサ(初金等の10時ミサ)の朗読を依頼された方は、必ずご出席ください。朗読者、先唱者はもちろん、朗読、先唱をご担当されていない方もどなたでもご参加ください。

○ミサで使用するカトリック聖歌集が少し不足しています。各ご家庭に、お使いにならないカトリック聖歌集がありましたら、ご寄付ください。寄付していただけるカトリック聖歌集がありましたら教会事務所まで。



《 お知らせ 》

教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★養成部より★

・2011年度平和旬間合同礼拝

8月7日(日)13:00 於・主聖堂

説教:「わたしの中には 平和がある」 岩崎 謙牧師(神港教会)

・被爆ピアノコンサート

8月21日(日) 開演14:00(開場13:30) 於・主聖堂 入場無料

演奏:林 典子

主催:カトリック大阪大司教区神戸地区

・聖書朗読リレー

8月27日(土)7:45～17:00 於・小聖堂

朗読時間一人10分

参加申込は8/21までに応募箱へ

★社会活動部より★

8月は、手芸の集い、炊き出し、ミニバザーのいずれもお休みです。





みんなの広場

わたしの毎日は

8月は聖母の被昇天、嘗てこの日は守るべき祝日でした。あの戦時中、平日に教会の掟を守ることが容易ではありませんでした。ところが8月15日は旧盆、キリスト教のお盆と称して切抜けた信者たちがいました。ものは使いよう。今も。

無原罪の御孕りは1854年にパパ様ピオ9世によってドグマに定められました。原罪がなければその結果である死はあり得ないはず、すでに8世紀頃から被昇天と呼ばれていたのになぜかドグマとして認められたのは1950年、パパ様ピオ12世によってでした。どうして？

福音書を通読すると、マリア様はご自分が原罪を免れているとはご存じなかったのではないかとお告げに始まりゴルゴタを経て神の許へ上げられるまで、マリア様の生涯は誰も体験したことのないばかりではなくこれからも誰も体験することのない苦難の生涯でした。マリア様がそうであったように、わたしにも神は道を設えておられる筈です。そのことを自覚しているだろうか。なぜこんなことがと訝っているのではないかと。

最近長く伝えられ行われていた信心の業が忘れられているようです。教会の祭日や主日、記念日なども日常には関わりないことになっているのではないかと、信仰が非日常になっている徴ではないかと。マリア様の完成を祝うこの日に、マリア様の生涯とわたしの毎日を比べてみたい
今日の福音は「マグニフィカト」です。 (ヨハネ三好榮之助)



信徒の皆さん！ご存知ですか？



日曜日七時のミサ後、昨年までであった“みさご”に代わって軽食喫茶“あさの会”が、皆様のお越しをお待ちしています。

先月まで第二日曜日七時のミサ後だけのオープンでしたが、今月から第二と第四日曜日七時のミサ後「サ後にオープンすることになりました。

どうぞミサ後、軽食を共にしながら親しい人、久しぶりの方、初めての方との分かち合い・団欒に、是非ご利用下さい。“あさの会”一同、皆様のお越しをお待ちしています。
(軽食喫茶) “あさの会”より



<p>教会報9月号の発行は、8月28日(日)です。 編集会議8月21日(日)です。 記事原稿は、8月14日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松村信也 神父 編 集 広 報 部</p>
---	--